

就任インタビュー

北沢バルブ（現キッツ）入社から31年間、営業部門を中心にキャリアを積み、4年前にはグループ企業の東洋バルブ社長、そしてこのほど、清水合金製作所社長に就任した。

「当社は『優れた製品を水道事業への供給をもって』と社是に明記されている通り、水道界にターゲットを絞っています。

民需用バルブを手がけるキッツや東洋バルブとは異なる点も多く、水道界における商習慣やものつくりについて勉強の日々です」とした上で、「創業から70年以上に及ぶ社歴のなか、お客様との良好な信頼関係を土台にSGSブランドを育ててきました。先人が築き上げた信頼をしっかりと守り、次の世代に繋ぐ責任の重さをひしひしと感じています」と決意を語る。

具体的には「水道界に貢献する人の財産、すなわち『人財』を集め、成長させることを経営の最重要課題と考えています。



お客様や取引先企業との信頼関係をさらに深めるため、取り組むべき課題は数多くあります。品質の確保、短納期やアフターフォローといったお客様サービスの充実、ニーズに即した新製品の開発など、これらは全て、優秀な人材が育つてこそ実現できるものです」。

を鮮明に打ち出し、SGSブランドに対する高い信頼と支持を寄せて頂く。厳しい時代に突入した水道界で生き残るための生命線と考えています。和田前社長のもとで推し進められた取り組みを引き継ぎながら、着実に歩を進めたいと方向性を示す。キッツでは建築設備や工場プ

こととなり、特にクレーム対応のあり方を勉強する良い機会となりました。目の前のお客様に対し、誠実さと正確さを前提とした留意即妙のレスポンスが求められるわけで、スピード感をもって対応する難しさと大切さを学びました」と振り返る。「当社では品質管理部が担当します

“人財”と組織力強みに

SGSブランドに磨きをかける

さらに「開発・技術、製造、営業など各部門のチームワークをさらに高め、より迅速に、より大きな成果を生み出せる組織づくりに尽力したい。企業競争力を高める取り組みを地道に積み重ねる中で当社の強み、特色

ラントで使用されるバルブの営業や企画のほか、新規事業の立ち上げにも携わった。「山梨県内の県営スキー場の運営業務を受託するスタートアップを統括しました。サービス業に携わることで多くの貴重な経験を得る

が、限られた人員のなか、対処が非常に早いですね。メーカーとしての基本がしっかりできており、ポテンシャルの高さを感じています」と胸を張る。趣味はスポーツ全般で、大学時代はスキー部に所属。ゴルフは「平常心をキープできるか否かで結果が大きく左右される」メンタルな要素に魅力を感じて

興味として1年前からアルトサクスを始めた。「不退職の決意で楽器を購入し、カラオケ店で練習しています」。

座右の銘は「吾唯足知」で、理念は「知足の心（足ることを知る）」。

京都市・龍安寺の手水鉢に刻まれた禅の教えで「他者や社会に対する感謝の心を忘れず、お互いの心が豊かになる余裕を持ちたいものです。ステークホルダーの皆様、さらには水道界に貢献できる社業そのものへの感謝の心を抱き、日々取り組みたい」。

.....

（おだ・ひとし）1984年3月青山学院大学経営学部卒業。同年4月、キッツに入社し、2014年4月バルブ事業統括本部事業企画部長を経て2015年4月東洋バルブ代表取締役社長。今年4月1日付で清水合金製作所に入社し、5月28日付で代表取締役社長に就任。1960年6月生まれ59歳。東京都出身。

清水合金製作所
代表取締役社長 小田 仁志氏